

英文中の前置詞の解釈の分岐にその前置詞の一般的な意味的機能は起因するのか

大川悠介 23B10590
東京工業大学工学院

1. はじめに

英文を和訳する際に前置詞は、ものによって一見多岐にわたった意味を持ち、意味の判別に困る機会が多々ある。今回は前置詞で認識の割れが起きやすさに前置詞が一般にもつ意味的な機能が関わっているのか、一部の前置詞について調査、そして調査に関する考察をおこなった。

2. 方法

Google Formlにto for of as の前置詞を用いた英文とその和訳のサンプルを与え、和訳が妥当であるか判別する問題を作成し、SNS上でformを公開して回答者を募り、各回答者の回答の結果を収集した。

3. 結果

割合が20%未満あるいは80%以上の選択肢の数値を赤文字、30-80%の選択肢の数値を青文字で表した。

訳の認識が割れやすい前置詞(青文字)は、特に文法の機能として逆接や因果関係が絡む傾向にあることが分かった。一方で認識が割れにくい英文における前置詞は、特に前置詞の果たした機能的役割が順接、起点に関わる傾向があることが分かった。

表1. for /to を用いた文章についての回答結果

尋ねた英文	間違っていると判断した割合(%)
This train is bound for Mizonokuchi. この電車の目的地は溝の口です	1.72%
He went to Tokyo yesterday. 彼は昨日東京に行った	6.89%
He went for Mizonokuchi yesterday. 彼は昨日溝の口に行った	98.27%
She is walking for the park to enjoy the sunny weather. 彼女は公園に向かって歩いています。晴れた天気を楽しむためです	51.72%

表2. of を用いた文章についての回答結果

尋ねた英文	間違っていると判断した割合(%)
Free of charge 自由という概念を納税する	60.34%
This product is made of America. この製品はアメリカでつくられている	87.93%
He deprived us of our money. 彼は私たちから金を奪った	13.79%
He died of his illness 彼は病にかかって死んだ	34.48%

表3. as を用いた文章についての回答結果

尋ねた英文	間違っていると判断した割合(%)
He works as a policeman. 彼は警察官として働いている	1.72%
As time passed, her illness got more serious. 時間が経過したので、彼女の病は悪化した	36.21%
Rich as she was, she was happy. 彼女は金持ち故幸せであった	36.21%
Poor as he was, he was happy. 彼は貧しかったにも関わらず幸せであった	51.72%

4. 考察

結果についての原因の分析を行う。
訳の認識が割れにくかった文章に関して、前置詞の果たした機能的役割が順接、起点に関係がある、と考えられるが、松本曜らが述べている前置詞の意味的な定義における、「関係概念を表すことは、2つのものの関係を表すと言うことである」という解釈になぞらえると、順接も起点も、それらの意味の持つ前置詞によって結ばれる2者間の関係は縄田裕幸らによって述べられているように等位的、あるいは松本曜らによって述べられた、空間的位置関係における従属関係が明確となっており、その関係性と結び付けられる前置詞の判別に認識の割れが起きにくいのではないかと考えられる。

同様の考察を、訳の選択が割れた英文中の前置詞についても行う。初めに因果関係についてだが、2者間の関係性について考える際に、マイケル・トマソロが提唱した「因果連鎖のネットワーク」が、文中の前置詞によって構築されているが、前述した等位性や単純な従属関係に比べると、よりforやbecauseのような記憶のリンクがなされやすい前置詞の方を妥当として判断する傾向が増すのではないかと考えられる。

また逆接について考察をおこなうと、逆接によって確立される2者間の関係性は順接と同様に等位である。しかし、順接と比較すると、これもbutのような前置詞の方を優先して妥当として判断する傾向が増すのではないかと考えられる。

この考察の妥当性を検証する、あるいはまた異なる前置詞の機能的役割の訳の判別に関する寄与を確認するためには、because of, out ofといった複数の前置詞によって構成される表現を含んだ英文の訳に関する判別、また起点の機能を果たすことが可能なfrom, forと組み合わせる前置詞の選択を行うことによって、可能となるのではないかと考えられる。

5. おわりに

前置詞を含む英文を日本語として理解しようとする際に、日本人の判断について、google formlにていくつかの前置詞を含む英文の和訳の妥当性について判断させたところ、前置詞が英文中で作用する意味が順接の機能的役割を果たすと訳は割れにくく、逆接、因果関係といった機能的役割を果たしているほど解釈が分かれやすいことが判明した。

文献:(主要な文献)

縄田裕幸,久米裕介,松本洋介,山村崇夫(2018)「前置詞と前置詞句,そして否定」, 開拓社.
マイケル・トマセロ[編] / 大堀壽夫,秋田喜美,古賀裕章,山泉 実[訳](2011)「認知・機能言語学——言語構造への10のアプローチ」, 研究社
Matumoto Yo ,Takata Yuko(1995) “Prepositions and Grammaticalization:General Issues and the Case of Kola”, in Christ and the world ,pp.1~15.